

乳牛に魅せられて

兵庫県立播磨農業高等学校 畜産科 3年 南畝 千夏

まさかこんなにも牛に魅了されるとは思いませんでした。

中学校3年生のオープンハイスクールで牛に一目惚れした私は、兵庫県立播磨農業高等学校に入学し、乳牛クラブに入りました。乳牛クラブは子牛の哺乳や育成牛と乾乳牛の飼養管理、出産の補助や薬の投与などが主な活動内容です。入部して初めて見た超音波画像診断装置による妊娠診断では、牛の肛門に手を入れて胎児が画像に映し出されました。人工授精後、35日で1.5cmの胎児の映像は農業高校に入学した私にとってとても衝撃的でした。命があるとわかっていても、こんなにも小さいとあまり実感が湧かず、不思議に感じました。

入部して約5ヶ月が経った頃、顧問の先生から次に生まれてくる子牛の担当を任されました。率直にとっても嬉しかったです。しかし、やってみたいと言ったものの、何も知らない私が、これから生まれてくる子牛を任されても良いのだろうか、責任を持って育てられるのだろうか、と不安でいっぱいでした。予定日から5日経った朝、牛舎に行くとかわいい雌の子牛がペンの中でじっと私を見つめていました。その瞬間、私はこの子の担当になり、大切に育てると決意しました。生まれてきた子牛の名前は、みんなに愛される子であって欲しいという願いをこめて「シェリー」と名付けました。子牛は体調が変動しやすいので、管理を欠かさず細かい変化も逃さず毎日記録しました。糞の状態や、採食量を見て異変にすぐ気付くことが出来たおかげで、今まで大きな怪我や病気もなくすくすくと元気に育っています。私が想像していたよりもはるかに牛の成長スピードは早く、もう21ヶ月齢となり分娩を控える体重620kgの大きな乳牛となりました。

私は、1年生の時に初めて行った兵庫県ブラック&ホワイトショウで様々な牧場の牛を見ました。酪農家たちの自慢の乳牛が出場し、まるでスポーツをしているかのように真剣にリードをしていました。そこで酪農の魅力をより感じました。2年生の時に乳牛の全国大会である全日本ブラック&ホワイトショウに行き、県とのレベルの違いに驚かされました。「ここでシェリーとチャンピオンになりたい」私に夢ができました。毎日牛を洗い、何度も毛刈りをし、リードの練習も毎日行いました。リードは牛の体が綺麗に見えるように私たちが牛を引くことを言います。シェリーは最初、全然言うことを聞いてくれず、暴れたり歩かなかったりと、とても苦労しました。リード練習をするたびに、とても辛くなり、逃げ出したかったです。しかし、ラウンダーという機械に繋いで歩かせていると、顔を上げる位置も覚えて、ゆっくりと歩くようになりました。先生や先輩、友人たちに教えてもらいながら一番綺麗に見えるリードの仕方を研究しました。そうして迎えた今年3月の兵庫県の共進会でシェリーは4部チャンピオンを

獲得することができました。「やってきたことは無駄ではなかった」そう思うことができました。

そして4月には、全日本ブラック&ホワイトショウにシェリーと共に行くことができました。酪農家の方々に協力していただき、ベストコンディションで出場することができました。しかし、結果は納得のいくものではありませんでした。悔しかったですが、リングに入ると、私の気持ちが伝わったのか、今までで一番綺麗にリードすることが出来ました。私たちが出場する最後の大会である兵庫県乳牛共進会には、立派な成牛になって乳房のできあがったシェリーと一緒に出場したいです。今までの悔しかった気持ちをバネに、シェリーと一緒にグランドチャンピオンを取ります！

シェリーは先輩方の取った受精卵で生まれました。ドナー牛は亡くなっており本来は生まれることの無い牛です。初めて見た受精卵回収では、生徒を中心に行っていて、驚嘆すると同時に、受精卵に興味を持ちました。2年生になった私は、農業クラブ専門分会の受精卵移植（ET）班に入りました。ET班では次世代の乳牛改良を目指し、「乳牛共進会」を活性化するために、本校の優良な乳牛から受精卵を回収し、酪農家に供給しています。3年間で受精卵を延べ26回収し、回収卵134個、移植可能な受精卵59個を回収することが出来ました。確実に雌を誕生させようと雌の確率が90%と高い♀選別精液を用いた受精卵回収を6回実施しましたが、移植可能な受精卵はわずか9個と♀選別精液の受精能力の弱さが目立ちました。

しかし、育成牛に♀選別精液を用いて受精卵回収を行うと、1頭の牛から回収卵11個、移植可能な受精卵10個を回収し、凍結受精卵にすることが出来ました。その中のいくつかの凍結受精卵を培養実験用としました。インキュベータ内で培養しましたが、培養液が夜の間に蒸発し、受精卵が発育しませんでした。失敗を重ね、多くの受精卵を使いましたが、新しい知識が身につき大変良い経験になりました。卒業までに成功させ、本校で回収した♀選別による凍結受精卵の精度の高さを証明します。

受精卵移植成績は本校24頭と酪農家18頭に移植し22頭が受胎の52%でしたが、流産が11頭と多く受胎後の管理が課題となりました。

また、高齢化が進む乳牛共進会の活性化として、酪農家の支援を得て農業高校生が参加するリードマンコンテストを企画しました。消費者に酪農の魅力をアピールしようと今年の3月の兵庫県乳牛共進会で第1回農業高校生のリードマンコンテストを開催することができました。高校生の参加は19名と多く、乳牛を酪農家から貸し出して頂き、出場前にはリードの仕方を教えて頂くという、今までにない交流ができました！

このような活動から、兵庫県乳牛共進会は3年前の出場頭数が48頭であったのが、今年は70頭と増え、活気ある共進会となってきました。

私は卒業後、牧場に就職し乳牛を育てたいです。牛は言葉を発しませんが人と同じように

感情があります。家畜はペットではありませんが、生き物です。私は乳牛たちにとって最適な場所で家畜として幸せに暮らして欲しいです。さらに、人工授精師の資格を取りたいです。今は牛の肛門に手を入れても子宮の状態が分からないですが、しっかり勉強して経験を積み、自分の手で高乳量と連産に耐えられる美しい牛群をつくりたいと考えています。そのためにも、北海道や海外のホルスタインを見に行きたいです。

本校に入学して最初に学んだ言葉「牛は私たちの鏡」。3年間で本当にそうだと実感することが多々ありました。牛を育てることは簡単ではありませんが、私にとって牛は高校生活の全てであり、共に成長してきたパートナーです。これから多くのことを教えてくれた牛たちと日本の酪農の発展に貢献していきます。